

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503932		
法人名	株式会社 ジェイライフ		
事業所名	グループホーム かわしも公園 (1F)		
所在地	札幌市白石区川北2条3丁目7番13号		
自己評価作成日	平成 27年9月18日	評価結果市町村受理日	平成 27年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503932-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ1年職員の退職等無く、勉強会、定例会で職員のスキルアップに努めてきましたが、最近退職者があり、職員を新規採用致しました。以前から折に触れ、グループホームの特色、出来る事、外部機関に依頼する事、ご家族様への報告事項等徹底してきたつもりですが、今回新たに入ってきた職員の状況に応じ、業務、ケアの説明をユニット責任者、役職者と行い、介護力の低下を防いでいよう努力していきます。また最近、入居者様の新規受入も続いており、グループホームでの生活を少しでも快適に送って頂ける様、創意工夫を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、管理者からホームの方針が明確に示されているため、職員一人ひとりがその方針に基づいた支援が実践されている一体化が感じられる。利用者支援に関しては、利用者を主体として職員はサポート役に徹し、利用者の自立を促した支援が実践されている。地域密着型事業所として、地域との関わりを一層深めるために、積極的に地域行事への参加や近隣住宅への訪問などを事業所開設以来、地道に続けてきたこともあり、近所の高齢者や子供などの日常的な交流も増え、地域に溶け込んだホームになっていることが窺えた。職員育成に関しては、日常業務の中で、管理者や先輩職員が後輩職員に対して、丁寧な指導を行っており、経験の浅い職員も安心して働くことができていることが確認できた。また、職員の自主性を促すために、利用者ニーズに応える企画を職員一人ひとりに作成させ、その実現に向けた準備から実行を通じて、達成感や意欲の向上にもつなげている。さらに、管理者は、職場環境整備も注力しており、行事や夜間浴などの際に職員の人員配置を多くしたり、職員が有給休暇を取りやすくなるよう職場環境づくりにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	毎日の申し送り後、管理者に報告を行い、細かい業務の確認、ご家族様への報告、関連機関への相談、報告が適正に行われているかの確認をしています。	管理者は、事業所の方針を明確に示しており、方針に基づき支援の実施状況を毎日の申し送りや日常業務においての職員への個別指導により共有化を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時等、地域周辺の住人に声をかけ、ホームに来て頂ける様工夫をしています。	開設以来、近所づきあいを大事にしており、事業所から積極的に高齢者や子供たちとのコミュニケーションを図る機会を作っている。その結果、近所の方からも事業所の運営に協力が得られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター養成講座の講師登録をしており、町内会の講座等、行政の依頼により、説明をさせて頂いております。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価時も評価結果を配布し、説明しています。	運営状況については、運営推進会議の場でありのままを報告している。会議メンバーからは、運営上で参考になる助言も得られ、意見を運営に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の管理者会議、入居状況報告書等を活用し、又不明な点等、電話で確認し連携を保っています。	行政(市・区)の担当者とは緊密に連携が取れており、運営上、不明な点などがあつたときには助言を得て、協力関係を築いて運営に役立てている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束関係の資料、情報をまとめ、職員に回覧し意識向上に努めています。	身体拘束に関わるような支援は行われていないことを確認できた。職員研修においても、拘束しない支援を行うことについて周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関係の資料、情報をまとめ、職員に回覧し意識向上に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で、包括支援センターの相談員の方に説明をして頂く等知識習得に努めています。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の説明の徹底と、面会の際のお声がけの時等、疑問、希望等聞く様にしております。					
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	役職者が中心に、ご家族様、入居者様のご希望を出来るだけ聞き、具現化するように努めています。	職員が利用者の意見や要望を知ろうという意識を持ち、日常のコミュニケーションを図っている。家族に対しては、来訪時や電話などにおける会話の機会を通じて家族の意見を聞き出している。				
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り後、報告に来た職員に発言を求め、疑問、不安等少しでも解消出来る様心掛けています。	職員会議において職員からの意見を引き出すよう心掛け、出てきた意見については、運営に反映させている。利用者からの要望については、担当職員が企画書を作成し、その実現に向け管理者はサポートしている。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業条件の改善、有給消化の喚起等、疑問等が無い様説明しています。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の定例会での学習以外にも、外部研修参加時にも手当を支給する等、工夫しています。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市、区の管理者会議などで、意見交換をしながら、いろいろな話し合いをもっています。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、出来るだけ、顔を覚えて頂ける様、コミュニケーションの方法等、職員と情報の共有をし、実行しています。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様ご本人様の要望等が気軽に話せるような、環境、体制作りを心掛けています。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談時等たとえ、グループホームへの入居に結びつかなくても、その方、ご家族の最善を考え、分かる範囲で、説明しております。					
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事を出来るだけしてもらう様な声掛けを心掛けています。					
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの電話を利用し、ご家族からの電話、ご家族と話したい時の取次を行っています。					
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には出来るだけ写真を撮らせて頂き、いつ誰が来たのか後で分かる様に部屋に貼らせて頂いています。			馴染みの方との関係が途切れないよう、家族・親類や知人と面会する機会には積極的にサポートしている。また、利用者との会話において職員は、馴染みの方の話題を取り上げるなどの工夫も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の部屋の行き来、本等の貸し借り等、トラブルにならない程度の見守りしながら、交流を促しています。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価					
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも近況をお知らせ頂ける事もあり、必要に応じ、相談、支援をしています。								
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント											
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望を話して頂ける様な、信頼関係作りを行っています。			積極的に利用者とのコミュニケーションを取りながら意見や要望を聞き出し、その実現に向けた支援を行っている。職員が利用者との穏やかな様子で会話をしている様子が随所で窺えることができた。					
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に提出頂く、資料の中に、生活歴、職歴、病歴既往歴等を記入して頂き、把握に努めています。またご本人との会話の中で、知り得た情報を共有しています。								
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時より継続して、状況の把握に努めるよう、声掛けしています。								
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者以外にそれぞれ担当職員を指名して、モニタリングを行っており、きめ細やかなプランの作成に努めています。			介護計画は、計画作成担当者のみならず、本人、家族、および担当職員の意見も尊重され、各フロア全体で共通の方針のもと計画作成を行っている。			利用者の状態や要望は変化していくため、状況の変化については、モニタリングの場で課題を共有し、次の介護計画に反映することを期待する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を中心に日々行っています。								
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マンツーマンでの対応も計画に盛り込み、ホームだから出来ないという概念を取り払う努力をしています。								
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	雪解けから雪が降る迄、花壇の整備、畑での作物の収穫、加工まで、一貫して入居者様の意向で行っています。								
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じ、通院、往診等複数の医療機関と連携を持ち、本人、ご家族様が安心出来るように心掛けています。			かかりつけ医とは連携が取れており、入居者の体調に異変があったときには往診の対応を受けることが出来ている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに勤務している看護師だけではなく、主治医の医療機関に必要であれば、状況報告、相談を電話等で行い、必要な対応を行っています。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご家族と定期的に連絡を取り、ご本人に面会に伺い、状況を病院に聞く等を行っています。また必要に応じ、医療機関、各関係者と担当者会議を持つ事もあります。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、ご本人様を要望を聞き、ホームで出来る事、出来ない事、リスク等を納得して頂きながら、支援しています。	重度化への対応方針に基づき、終末期には、入居者本人、家族、主治医の意向に基づき、事業所での看取りが出来る体制を整えている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤の見習いの時から、特変の対応を徹底して指導し、職員の不安を解消しています。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練時、避難の手順などを確認し、有事の際に備えています。	定例的な避難訓練において、避難経路、役割分担、および初期対応などの確認を行っている。			定例的な避難訓練の他、あらゆる場面(時間別、ケース別など)を想定し、日常的にもそれぞれの役割や初動対応を確認し実践につなげる体制を構築することを期待する。 さらには、災害時には近隣住民の協力が必要となる場面も想定され、日常における地域交流をより一層深めて避難訓練への地域住民参加や非常時での協力を得られる体制を築いていくことを期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に対し、入居者様への敬愛の念をどのように感じ取って頂くか等、答えが出ない事も話し合っています。	職員が利用者へ声かけを行う際に、穏やかな丁寧な口調で話しかけている様子を随所に窺えることができた。利用者の表情や様子からも安心して過ごしている様子が確認できた。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に選択出来る自由を提供するよう、声掛けにもこだわっています。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のお手伝いから、その日に天気等で活動を相談しています。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外食や来客時、化粧や好みの衣類を選んでもらうように声掛けしています。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に食べたいメニュー等もお聞きし、導入しています。日々のごしらえ～味付け、配膳、下膳食器洗い等、出来る事をして頂いています。	献立を考える際には、その日に食べたい献立があった場合には、利用者の要望を聞き入れている。食事を作るときには、利用者で料理の得意な方に調理、味付けを任せていることもある。食事の時間は、利用者と職員が会話を楽しみながら食事している様子を窺えることができた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量、水分等は毎食記録しています。また個々人の咀嚼回数等も把握し、判断基準のひとつにしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後職員が確認しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の誘導パターンはユニット会議等で職員全体が徹底できるように配慮しています。	排泄パターンを掴むために排泄時間などのデータを取り、職員間でも共有し、自立排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送り時、便通の報告を受けています。個個人の状態に沿って、水分補給、腹部マッサージ等職員が対応しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お声掛けして、その日入浴するかを決めて頂いています。次回の入浴の予定も希望をききながら決めていきます。	入浴支援をスムーズに行うために、入浴時間帯の職員数を多くするなど、体制面を整えている。夜間浴が好評であることから、希望があれば夜間浴も実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前の室温、湿度等季節の変わり目等、特に確認し、安眠出来るように環境を整えています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認と薬が変わった場合は職員に報告、徹底します。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団レクレーションの他、個人の趣向の行事、お出かけ等も実施しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くは周辺の散歩から、ご家族同行の催事等、本人のご希望を尊重し、外出しています。	雪のない季節には、日常的には、近所のコンビニエンスストアで買い物したり、公園への散歩などの外出支援を行っている。 また、定期的な外食や、希望者と職員と一緒に野球観戦、競馬観戦へ行くときには、職員配置に配慮した上で実施されている。	冬期間は、徒歩で外出することは難しいものの、ホーム内に籠ることのないよう、定期的に車で外に出る機会を設けるなどの外出支援を期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の趣向品等の買物の清算時、お小遣を渡して清算をして頂いています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎは常時行っています。ご家族様へクリスマスカード、年賀状、人によっては、暑中見舞い等を郵送する入居者様もいます。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに椅子を置いて、いつでも休める様にしています。廊下を歩く練習をしている方もいらっしゃいますので、見守り、声掛けを行っています。	共有空間は、利用者それぞれが椅子やソファでくつろいでいる様子を確認することができた。壁には、季節感を味わえる飾りつけ、訪問した子供たちからの手紙、外出時の写真などが飾られており、穏やかに過ごせる居心地のよい空間となっている。 室内は適度な明るさであり、特に気になるような臭いも感じられなかった。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに置いている椅子は移動可能なので、ご希望に添い休んで頂いています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居相談時にご家族様に説明をさせて頂き、馴染みのある物を出来るだけ持ってきて頂いています。	自宅で使い慣れた家具や仏壇を持ち込まれたり、家族からの手紙や写真が飾られており、居心地よいプライベートの空間が出来上がっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の「出来る事」の見定め等は日によって違うので、その日の状態の把握が重要なので、その日の状態把握を心掛けています。			